

年休がますます取れなくなる

前回、博多地区本部で開催された「組織・交通合同対策会議」の中で、嘱託再雇用社員の「特休」が12日間増えるという制度についての意見が多数上がりました。「休日が増える」とだけ聞くと、あたかも労働条件が改善されるかのような印象を受けますが、これこそが会社の狙いというわけです。お気付きの通り、嘱託社員の「休み」は増えても、現場の要員は全く増えていないため、当然、そのしわ寄せは年休の取得がより困難になるといった形で嘱託以外の社員へと向かいます。もちろん、会社としては、「嘱託社員の労働条件を改善することが急務である」といった建前をかざしながらも、「嘱託社員だけ優遇するのは不公平だ」といった頓珍漢な感情論を口にするトンデモ社員の出現を密かに期待し、結果として、労働者同士がいがみ合ってくれたら万々歳というわけです。説明するのも馬鹿らしいですが、**会社の本来の義務は、同一労働同一賃金という「社会の常識」に沿って、嘱託社員の行路そのものを見直すか、一般社員と同じ賃金体系にすることです。**今まで、この「前提」が守られていなかったことこそが問題視されてきたわけであり、休日数だけ増やしてお役御免など論点のすり替えでしかありません。そもそも、12日間休みが増えたところで、現状のまま年休が全く取れなければ、十分な要員が確保され年休が20日間消化できる場合に比べて、トータルでの休日数は少なくなる上に、休みたいときに休むといったことも出来ないため、嘱託社員にとっては「改善」どころか、ありがた迷惑というものです。「最初のボタンをかけ違えると、残りのすべてもそうになってしまう」(ジョルダノ・ブルーノ)もともと、わが社の場合、それを意図的にやってのけるから、もはや神に仕える者の感覚さえをも上回っている。会社の「ペテン」は今に始まったことではありませんが、その不誠実ぶりは度を越しています。

青年のひとりごと

以前、某うどん店チェーンが日経新聞に「わが国のコロナ対策は矛盾だらけ」といった主旨の意見広告を出していました。僭越ながら、その内容を簡単にまとめると、「繰り返される緊急事態宣言や自粛要請によって身心ともに疲労し前向きな心が蝕まれていく。もう黙っていることができない。PCR陽性者＝感染者の報道はおかしい。すでに免疫が出来上がっている状態の無症状感染者まで『感染者』としてカウントされ、『数』だけが誇張されている。当然、集団免疫も確立されているはずなのに、いつまで同じ『対策』を一様に続けさせるのか。また、スウェーデンでは、営業停止や外出自粛どころか、三密回避やマスクもしない。感染防止ではなく、一定の感染状態をキープし免疫を落とさないようにする政策をとっている。わが国においては、主権は国民にあるにもかかわらず、国民が正しいことを知ろうとしないことが諸悪の根源である。」というもの。メディアの報道を思考停止的に鵜呑みにするような方はさておき、私たちに対しさまざまな制約を余儀なくする現状に疑問を持ち、「コロナ」に関する多くの文献やネット記事を通して専門家たちの意見等を参照し、正しく恐れている者からすると至極真っ当な内容です。「多数派」を支配している情報に立ち向かうかたちで独自の意見を出すのは非常に勇気が要ること。しかし、メディアの報道によって客足が遠のき、経営が危機的状況に陥っているのなら、その報道内容を細かく検証し、正しい知識を身につけて行動しなければ、それは「対策」とは呼ばれません。世間の同調圧力が怖いのか、どこかの会社のように、自社を「存続の危機」にまで追い込んでいる「コロナ報道」に対する吟味は何一つせずに、真っ先に社員へのコストを削ろうとするのは、「悪いのは『コロナ』ではなく『社員』だ」と言わんばかりの論点のすり替えであり、子供レベルの弱い者いじめ。「コロナ」を逆手に取った惨事便乗型ビジネスに他なりません。

○当面する行動

- 4月20日(水) 15:30~/2022年度基本方針経営協議会 JR九州本社
- 4月21日(木) 19:00~/筑紫地区8・6平和のつどい実行委員会 筑紫教育会館
- 4月26日(火) 17:00~/平和人権環境フォーラム構成組織代表者会議 中小企業振興センター
- 4月26日(火) 18:30~/沖縄と連帯する福岡県集会 中小企業振興センター
- 4月27日(水) 15:30~/2022年9月ダイヤ改正概要提案経営協議会 JR九州本社